

委託事業実施内容報告書

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム】

実施内容報告書

団体名： 一般財団法人 ダイバーシティ研究所

1. 事業の概要

事業名称	毎日の暮らしに役立つ「生活の漢字」の学習支援 ～十全な社会参画を目指して～
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	「生活者としての外国人」は、長年、日本で生活するうちに流暢な日常会話能力を身に付けることは少なくないが、文字、特に漢字については自然習得が望めないため、会話はできても読み書きができない非識字状態に置かれている実態が未だ日本全国で見られている。令和3年11月の文化審議会国語分科会の「日本語教育の参照枠」についての報告には、「漢字を含む文字を取りあげることについて」(p67)として、文字学習の意義と重要性が明記されているが、地域の日本語教室では会話中心の学習で、文字学習はあまり行われていないのが実情である。さらに、長引くコロナ禍においてオンラインによる学習支援活動が広がりを見せているものの、文字学習支援については、まだほとんどノウハウが蓄積されていない状況にある。 このような地域日本語教育の実態の一方、「生活者としての外国人」には、文字の学習や習得を強く希望する人が多数存在することは、今年度の教育実践でも明らかであった。彼ら/彼女らは、文字による生活情報の収集に苦勞し、文字知識がないことで日常生活や子育てに困難を感じ、願う仕事に就くことができず、その結果、自尊心感情までも失っている。即ち、これら非識字状態にある「生活者としての外国人」の実情が、まさに地域日本語教育の課題であることは間違いない。そして、彼ら/彼女らが求める文字学習の実現が特定のニーズであり、そのための、オンライン学習も視野に入れた教材とカリキュラムの開発が必要とされていることが実践においても感じられた。 また「子育て」という「待ったなし」のライフステージにある人たちの、育児や子どもの就学、自身の就業にかかわる書字言語の習得を望む声や、支え合うコミュニティを求める声が数多く聞かれた。外国ルーツの子どもたちの保護者が文字を学び、子どもの教育に十全に関われるようになることは子どもたちの進学や就学の課題解決に直結すると考えた。そのためには、保育付きの漢字教室・オンラインでの実施など子育て中である学習希望者の状況に配慮した学習環境を提供した。 さらに、文字学習支援の重要性を理解している日本語教育の専門家が、地域日本語教育の実践や運営にほとんど携わっておらず、どのように実施すべきかが課題となっていることも、文字学習が地域の日本教室に普及しない原因の一つと考えられた。そのため、今年度は2つの地域の実情に合わせた文字学習支援のあり方やプログラムを実践した。地域で活動しているコーディネーター・ボランティアと協働し、ともに検討し実施することによって、その後の継続的な活動の足掛かりになることを意図した。 これらの取り組みについては、文字学習の必要性を強く感じていない人へのアク

	セスが難しかったが、今年度においては、関係団体や昨年度のコーディネーター養成講座受講生との連携のもと、新たな2つの地域で「生活の漢字」のコンセプトと必要性を広く知ってもらうことができた。日本語学習支援機関や文字学習に関心の高い人のみならず、より多くの場所で多様な人が「地域における漢字学習支援」に関する情報に触れられる取組となったことは喜ばしい。
事業の目的	本事業の目的は次の4つである。 1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進 文字学習を中心とした教室を文字教育専門家が実施することで、「生活者としての外国人」が身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てられるように、文字学習の困難を軽減し、漢字を学ぶモチベーションを高める。さらに、使用教材のスマホでの配布・閲覧、「つながるひろがる にほんごでのくらし」サイトの有効活用など、学習者が教室外でも自律的・継続的に日本語を学ぶためのサポートを行う。また元学習者である外国人スタッフにより、学習者の声を丁寧に拾い、寄り添うサポートを行うと共に、ロールモデルとなる人材との出会いの場とする。これらによって「生活者としての外国人」の日本語学習や十全な社会参画を促進することを目的とする。 2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場（オンライン） 「子育て」というライフステージにある外国人が、育児や就学、就業に関して文字情報を取得したり、書類の記入等ができるよう「子育てのためのオンライン文字教育プログラム」を開発する。講師や補助者も、子育て中である者が担当し、子育て中の人が参加しやすい時間帯に教室を設置する。文字の学習のみならず、同じ立場の人とつながり、お互いに情報交換や悩みの共有、相談ができる場の提供を目的とする。 3. 「生活の漢字」についての理解の促進と普及 多言語でのリーフレットを作成し、関係機関のみならず、これまで日本語教育や文字学習支援とつながりのない人にも知ってもらえるように、広く配布することで、「生活の漢字」についての理解の促進と普及を図る。 4. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成（アウトリーチ） 各地の地域日本語教室で活動するコーディネーターや中心となるボランティアとともに、その地域の実情に合った「生活の漢字」教室を模索する。文字教育専門家がその地域に赴いて在住の外国人を対象に「出前漢字教室」を実施し、ボランティアにも見学や参加の機会を提供することによって、各教室にふさわしい漢字学習プログラムを構築し、継続的に実施できる人材を育成する。さらに地域での文字学習支援についての相談体制を整え、文字学習支援のネットワークを構築することを目指す。

事業内容の概要 (課題をどのように解決したのか、どのような点が先進的な取組であったのか分かるように記載)	本事業の全体を通しては「生活者のための文字情報のリテラシー」を特定のニーズととらえ、「漢字学習」を事業の中心に据えたこと、またオンラインを有効活用したことが先進的であったと考える。ダイバーシティ研究所は「ダイバーシティ」を「構成員のひとりひとりが『よりよい明日をめざして活躍できる地域と組織のありよう』と定義し、『人の多様性に配慮した組織や地域社会づくり』を支援する非営利民間団体」である。多様な担い手が連携しながら、誰もが暮らしやすい地域をつくる『地域づくり』『誰もが活躍できる『社会づくり』』に向けた取り組みを続けている。当研究所がこれまで関与してきた外国人の方々が抱える大きな課題のひとつとしてリテラシーがある。この必要性を教育実践として事業に反映させた。当研究所の外国人コミュニティや子育て中の日本語学習者につながるネットワークと情報発信力を、本事業にも活用できたと考える。 1. 漢字教室「暮らしの文字」(対面) 社会参加を促すための文字習得という目的達成のため、漢字学習の基礎を身につけるための活動を行い、そのうえで生活に必要な文字習得のための活動を行った。漢字学習の基礎力の育成および生活場面で必要な漢字語の習得により、学習者は自律的に社会生活を行えるようになったことが最終アンケートから窺える。さらにスマートフォン用の教材を学習に活用することで、学習者が教室の内外で継続的に学習できるようにしたことは今回の事業での先進的な取り組みであるといえる。 2. 漢字教室「子育てのための生活の漢字教室」(オンライン) 幼稚園、保育園、小学校からの連絡や、申込のための書類の記入など、日本で子育てをするには、文字から情報を入手することは必要不可欠である。しかし、地域における日本語教室などでは、子育てに特化した文字学習支援は存在しないため、日本語教育の専門家による「子育てのための生活の漢字教室」を実施した。オンライン(同時双方向型)で実施し、欠席者には授業の録画を配信したことにより、在住地域や時間を限定されることなく、漢字学習ができる環境を設けた。また、本漢字教室に参加することで、日本で子育てをする外国人保護者同士が知り合い交流する場となった。また本取組が他地域や団体の参考となるよう見学者も受け入れた。 3. 「暮らしの文字」「子育ての文字」に関する教材作成 上記1, 2の それぞれの特徴にあった学習教材を作成・公開することで、教材の選定や作成が難しいと言われる文字学習をサポートした。「子育ての文字」の教材についてはオンラインでの学習を想定し、学習者が画面上に実際に書き込んで学習できる形式とした。 また継続的な学習に活用するためにスマートフォンで閲覧しやすいよう文字の大きさに配慮、書き順のリンクを加えるなど教材を作成し、ダウンロードできるようにした。さらに今年度は、漢字の書き方の基本を学ぶ動画教材を SNS 上で公開した。スマートフォン用の教材を配布することで、学習者が教室の内外で継続的に学習できるようにしたことは、先進的な取り組みであるといえる。
---	---

	4. 多言語リーフレットの作成と配布 多言語で簡易なリーフレットを作成し、「生活の漢字」の意義や役割、取り組みや学習者の声を発信し、広く「文字学習支援」の普及及び住民の日本語教育への理解の促進を目指した。これらのリーフレットを地域の外国人支援機関のみならず、区役所、学校、保育園、図書館、公民館他、外国人コミュニティや教会などに配布、設置をお願いした。配布が年度末になったが、今後も引き続き情報の届けられなかった人にアプローチする足掛かりとなると考える。 5. 地域日本語教育人材の養成（企画・見学・実践） 令和3年度に地域で現場を持つコーディネーターを対象にそれぞれの日本語教室で「漢字学習を取り入れた支援」を行ってもらうための講座を実施したが、その受講生である地域のコーディネーターの尽力により、今年度の茨木市での事業が実現した。また兵庫県国際交流協会のご紹介で、加東市でも実施の運びとなった。どちらもこれまで培ったネットワークを活かし、地域の支援者とミーティングを重ねた。支援者だけでなく、学習者も共に学ぶ形をとったことが、地域での文字学習支援の継続的な実施へとつながると考えている。
事業の実施期間	令和4年5月30日 ～ 令和5年3月28日（10か月間）

2. 事業の実施体制

（1）運営委員会

実施体制	1回目:5月31日 事業開始にあたって、内容を検討した。 2回目:11月29日 事業の経過報告を行い、残りの事業内容について検討した。 3回目:3月13日 事業全体の報告と成果の検証を行った。
------	---

（2）地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大阪市立総合生涯学習センター、大阪市教育委員会、こどもひろば、とよなか国際交流協会 兵庫県国際交流協会、加東市国際交流協会、茨木市日本語学習会、茨木市中央公民館、沢良宜いのち・愛・ゆめセンター、総持寺いのち・愛・ゆめセンター、豊川いのち・愛・ゆめセンター
------	---

（3）中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実施体制	事業全体：★新庄、小野木、齋藤、御子神、川崎、高詒、掛橋 漢字教室（生活の漢字）：★新庄、川崎、小野木、高詒、御子神、MADE、木村、齋藤、掛橋、仙太 漢字教室（子育ての漢字）：★川崎、小野木、新庄、高詒、木村、仙太 理解の促進：★掛橋、小野木、新矢、御子神、MADE、木村 人材養成：★掛橋、★齋藤、新矢、御子神、新庄、川崎、小野木、高詒、木村、仙太 教材作成：★高詒、小野木、川崎、新庄、御子神、齋藤、掛橋、MADE、木村、仙太 会計事務：小野木、齋藤 ★コーディネーター
------	--

各取組の報告

(取組 1)										
【活動の名称：運営委員会の設置】										
取組の目標	各委員の専門分野を活かし、地域の日本語教育や外国人支援の現場を担う立場から、本事業実施に当たって、どのような課題やニーズに基づき行うのか、企画や当該事業の目標、事業実施について必要な助言等を行う。さらに、随時事務局からの報告を受けて、事業を客観的に監視するとともに、相談に応じる。事業終了後は、結果、どのような効果があったかを検証、目標との乖離が生じた場合、その要因等を分析・評価するための会議体を設置する。									
内容	第1回 事業開始時：目標、課題、ニーズ、事業計画の検討・助言等 第2回 事業中間報告：事業経過の報告、目標達成についての検証、課題の見直し、助言等 第3回 事業終了時：事業報告、目標達成・結果と効果の検証									
実施期間	令和4年5月 31日から 令和5年3月 13日まで				授業時間 ・コマ数		1回 1時間 × 3回 = 3時間			
対象者					参加者		総数 10人 (受講者人、指導者・支援者等 人)			
カリキュラム 案活用	なし									
使用した教材・リソース	なし									
受講者の出身 (ルーツ)・ 国別内訳 (人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インド ネシア	ペルー	フィリ ピン	日本

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

2022年5月31日(火) 午前10時30分～11時30分 第1回運営委員会
事業内容および予定を説明、意見交換を行った。各委員がかかわる活動事例や外国人の状況について情報を共有した。とくに子育て世代の在住外国人への取り組みについて、とよなか国際交流協会山野上氏に日を改めてヒアリングを行うことが決定した。

取組事例②

2022年11月29日(火) 午後17時00分～18時00分 第2回運営委員会
事業内容について経過報告および今後の予定を説明、意見交換を行った。対面開催した漢字教室への参加者が当初予想よりも下回ったことについて分析を行った。また学習者からヘルスケアにかんする相談などがあった事例を紹介した。各委員から、日本国内および海外のヘルスケア支援についての事例が説明され、今後文字学習とヘルスケアを結び付けていくことが必要であるという結論に至った。

(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

各委員の専門分野からの知識と事例を共有したことにより、事業内容の改善や今後の課題の明確化に生かすことができた。

(3) 今後の改善点について

運営委員会で意見交換を行っているものの、限られた時間では十分に討議できないこともある。今年度は、とよなか国際交流協会山野上氏を訪問し、ヒアリングを行った。このことは子育ての漢字教室の実施に大きく影響したと考える。各委員の専門性をより深く知るために、他委員へのヒアリングも行う必要がある。

(取組2—1) 特定のニーズに応じた日本語教育の実施日本語教育の実施 【活動の名称：永住のための生活の漢字教室】			
取組の目標	1. 地域に根ざして生活する外国人及び、日本に永住したいと考えている外国人に対して、地域日本語教育の専門家が漢字(文字)教育を実施することで、生活に必要な文字を習得し、漢字学習の基礎を身に付けることを目標とする。 2. 漢字(文字)を獲得することにより、外国人が生活者としてより広く、より深く社会に参加していくことを目標とする。元学習者が補助者として教室活動に参加し、よき理解者・指導者、またロールモデルとして活躍することで、受講者にとって社会参加の場、継続した学びの場とする。 3. 目標達成の検証は、毎月末に受講者とともに行う振り返り及び最終回に受講者を対象に実施するアンケート・自己評価により行う 4. 先進の事業(パイロット事業)であり、見学などを受け入れて他に範を示す。		
内容	<u>1. 漢字学習の基礎を身につけるための活動</u> 1) 漢字の基本の書き方の練習を行い、教室活動での書字練習だけではなく、継続的に漢字を自主学習するための基礎力を養った。 2) 「漢字探検」と称して、学習者が読みたいと思う漢字を探す活動を行い、文字としての「漢字、ひらがな、カタカナ」に注目させた。さらに、生活のなかで文字に注目するよう促し、読みたい文字についてはスマートフォンで写真を撮ってくるように指示した。また、カリキュラム内で、既習漢字を使った実践的な活動として大阪駅前ビルの探索および JR および地下鉄の乗車、天神橋筋商店街の探索および大阪天満宮を訪問した。この活動を通して、学習者は日本語の文字に注目することや、分からない漢字語は写真に撮り意味や読み方を確認することを習慣づけた。 <u>2. 生活に必要な文字習得のための活動</u> 生活場面をテーマとして設定し、その場面で使用する漢字語の読み書き練習を行った。テーマは下記の通りである。 災害、名前と住所を書く、買い物(セルフレジ、食品)、駅、病院、薬、問診票(名前と住所の復習)、道・標識、電化製品、ごみ、銀行、仕事を探す(求人票、応募フォームに名前と住所入力)、履歴書 <u>3. 日本語を用いた自己表現活動</u> 二回にわたり、自己を語る作文活動を行った。講師や補助者は学習者が書きたい言葉を聴き取り適宜補助することで、学習者たちは作文を完成させることができた。完成後は教室内で朗読し、作文は作文集として学習者に手渡した。		
実施期間	令和4年5月30日 から 令和4年12月20日 まで	授業時間 ・コマ数	1回 2時間 ×24回 = 48 時間
対象者	簡単な日本語の会話ができ、ひらがな・カタカナがある程度分かり、漢字を学びたいと思っている外国人	参加者	総数 29人 (受講者18人、指導者・支援者等 11人)

カリキュラム 案活用	まず、本事業の 24 回の授業内容を挙げる。 1. 開講式開講式（PC の使い方、学習方法） 2. ベーシックストローク（以下 BS）①・カレンダー① 3. 日本語・カタカナ入力・BS②カレンダー② 4. BS③カレンダー③漢字探検 5. 災害 6. 名前と住所を書く 7. 買い物（セルフレジ） 8. 買い物（食品） 9. 駅 10. フィールドワーク（駅の表示を中心に） 11. 病院 12. 薬、問診票（名前と住所の復習） 13. 問診票 14. 道・標識 15. 電化製品 16. ごみ 写真を見せ合う 17. 交流会（勉強法紹介、漢字探検、漢字キーホルダ作成） 18. 銀行 19. 紅葉（フィールドワーク） 20. 仕事を探す（求人票、応募フォームに名前と住所入力） 21. 仕事を探す（履歴書に名前と住所を書く） 22. 文を書く① 単作文 23. 文を書く② 作文 24. 修了式 作文発表 上記の授業内容と標準カリキュラム案との対照は下記の通りである。 下線が授業で扱った標準カリキュラムの内容、→以下は対象授業 <u>（01）医療機関で治療を受ける</u> <u>0101 適切な医療機関の選択をする</u> <u>0101010 選択する病院を知る</u> <u>01010020 症状に合わせて適切な病院・委員を探す</u> <u>0101100 診療科の看板を確認する</u> →11. 病院 <u>0102 問診票に記入する</u> →6. 名前と住所を書く、12. 薬、問診票（名前と住所の復習）写真を見せ合う 13. 問診票 <u>（02）薬を利用する</u> <u>0202 薬局・薬店を利用する</u>
-----------------------	---

0202080 必要な薬を探す

0202090 市販薬を選択する

0202090 薬の説明書きを理解する

→12. 薬、問診票（名前と住所の復習）写真を見せ合う

(05) 災害に備え、対応する

0501 避難場所・方法を確認する

0501080 災害時の支持伝達方法を理解する

0502 地震発生時に適切に行動する

0502030 非難する

0502050 情報を正確に理解する

0503 台風発生時に適切に行動する

0503023 天気予報・台風情報に留意し理解する

0503030 情報を正確に理解する

→5. 災害

(08) 物品購入・サービスを利用する

0801 対面販売で購入する

0801020 必要な品物を扱う店などを探す

0801130 値段を知る

0801140 商品の機能や値段を尋ねる

0801160 商品の表示を読む

0801160 値段・税率を計算する

0805 購入額を確認・計算する

0805070 支払方法を選択して支払う

0805080 代金を支払う

→7. 買い物（セルフレジ）、8. 買い物（食品）写真を見せ合う、15. 電化製品

(09) 金融機関を利用する

0903ATM を利用する

→18. 銀行

(10) 電車、バス、飛行機、船などを利用する

1002 路線図を確認する

1003 行き先・停留所を確認する

1003010 駅名や停留所名を確認する

1003020 乗る電車を確認する

1003050 路線図や駅名表示を読み取る

1004 運賃を支払う切符を購入する

1004010 購入方法や支払い方法を理解する

1004030 支払方法を確かめる

1004040 運賃や料金種類を確認する

1004050 切符を適切に買う

1004060 券売機を利用する

1004070 駅に券売機で切符を買う

→9. 駅、10. 駅（フィールドワーク）、19. 紅葉（フィールドワーク）

（12） 徒歩で移動する

1201 住所・番地を確認する

121030 住所表示、交差点名、街の案内図などを読む

1203 交通標識を理解する

1203010 日本式の交通標識について理解する

1203020 歩行者として必要な標識を理解する

→14. 道・標識、19. 紅葉（フィールドワーク）

（22） 就職活動をする

2201 情報を収集する

2201070 求人広告・求人情報を理解する

2202 応募する

2202130 履歴書を書く

→6. 名前と住所を書く、20. 仕事を探す（求人票、応募フォームに名前と住所入力）

21. 仕事を探す（履歴書に名前と住所を書く）写真を見せ合う

（34） 住民としてのマナーを守る

3401 ゴミ出し（ごみの分け方）について理解する

→16. ごみ 写真を見せ合う

（41） 学習方法を身に着ける

4102 日常生活の中で学習する

4102010 学習の方法を身につける

4102030 日常生活での学習方法を理解する

4102060 学習の仲間を作る

4102110 学習成果を自己評価する

4103 コンピュータを活用し自学自習する

4103010 コンピュータの使用方法を理解する

4103060 インターネット情報を活用する

（42） 日本語を学習する

4202 日常生活の中で日本語を学習する

4202010 日常生活での学習方法を理解する

4202110 学習の仲間を作る

4202130 学習成果を自己評価する

→1. 開講式（PC の使い方、学習方法）、2. ベーシックストローク（以下 BS）①・カレンダー①、3. 日本語・カタカナ入力・BS②カレンダー②、4. BS③カレンダー③漢字探検、17. 交流会（勉強法紹介、漢字探検、漢字キーホルダ作成、24. 修了式 作文発表

使用した教材・リソース	自主作成教材									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	4					3	1	2		
	メキシコ（3人）コロンビア（1人）、アフガニスタン（1人）、イスラエル（1人）、イギリス（1人）、ドイツ（1人）									

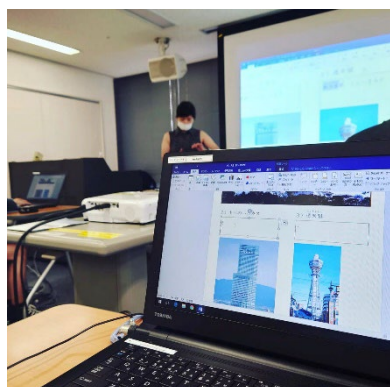
（１）特徴的な活動風景（２～３回分）

取組事例①

【第９回 令和４年９月６日】

次の回に予定しているフィールドワーク「電車に乗ろう！」に繋げるために、駅および電車で使用される漢字語について学習した。主な内容は下記の通りである。

- ・大阪駅、環状線の駅名、表示（内回り、外回り）、ホーム、電光掲示板
- ・大阪の名所付近の駅名入力、受講者の最寄り駅を探して入力
- ・電車内の表示（優先座席、女性専用車両、IC専用、乗り越し精算）、電車の種類
- ・書いた言葉（口・東・西・南・北・駅・線）



取組事例②

【第10回 令和４年９月13日】

前の回に学習した駅および電車で使用される漢字語を目で確かめるフィールドワークを行った。その際、クイズ形式のタスクシートを使用し、表示を確認後記入した。主な内容は下記の通りである。

- ・大阪駅～北新地駅までの乗り換えルートの確認（JR大阪駅、中央口、環状線、外回り、京橋駅、東西線、北新地駅、東出口）
- ・切符を購入（切符を買う）
- ・表示を見つける（女性専用車両、普通、お手洗い）
- ・読みたい漢字語を見つけ、写真を撮る（精算機、領収書、降車エリア、鉄道警察、大阪土産など）



（２） 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

目標は、「生活者としての外国人が生活に必要な文字を習得し、漢字学習の基礎を身に付けること」、「文字学習を通して学習者の社会参加を促すということ」、「継続した文字学習を身につけること」である。日本語教育・漢字指導の専門家が生活者に適した漢字学習のシラバス・カリキュラムを作成し、「漢字学習の基礎を身につけるための活動」、「生活に必要な文字の習得のための活動」、「日本語を用いた自己表現活動」を行った結果、学習者によるアンケートが示すように、目標を達成したといえる。アンケート結果は別に添付する。

さらに「見学者を受け入れること」、「SNS を活用すること」により、本事業の柱である文字学習支援の方法と実践内容について普及した。

見学希望者は全て受け入れた。見学者は合計 14 名である。

- 1) 関西学院大学大学院学生 3 名（7 月 26 日）
- 2) 大阪市立総合生涯学習センターインターンの大阪樟蔭女子大学生 1 名（8 月 23 日）
- 3) 大阪市立鳴野小学校識字・日本語交流教室支援者 9 名（10 月 4 日、25 日）
- 4) 大阪市立小学校教員 1 名（11 月 8 日）

さらに成果物として、「基礎漢字」表と、本事業の漢字教室での使用漢字との照合表を作成した。

（３） 今後の改善点について

コロナ禍により、健康および福祉について新たな制度やルールが開始されることが多い。今年度までの取組を継続しつつ、このような社会変化から学習者のニーズが高い「ヘルスケア」の項目をより取り入れたカリキュラムが必要である。

取組の目標	1. 受講者が子育てに関する漢字語を理解できるようになること。また、漢字の書き方等、漢字の基礎を体系的に学ぶことでコース終了後も継続して漢字を獲得していけるようにする。 2. オンラインの漢字教室を通して、日本で生活・子育てをする保護者が集い、情報交換などコミュニケーションの場とし、社会参加のきっかけとする。 3. オンライン授業（同時双方向型配信）と授業録画配信（オンデマンド）を活用し、受講生が時間やコロナウィルスの影響などの心配をせず自身の生活に合わせて学習する機会を提供する。 4. 目標達成の検証は、最終回に受講者を対象にアンケートを実施することにより行う。 5. 先進的な事業として、子育てに関する日本語支援を実践している他団体や支援者の方々と横の繋がりを持ち、情報発信、情報交換などをしていく。
内容	<u>各回の授業のテーマ</u> 1回目：問診票を読もう 2回目：入園・入学の準備をしよう（申込書） 3回目：連絡帳を読もう①（保育園・幼稚園） 4回目：連絡帳を読もう②（小学校） 5回目：学校からの手紙を読もう・返事を書こう 6回目：住所とまとめ <u>授業における工夫</u> 受講者がコース終了後も漢字を獲得していけるよう、テーマに加え、全ての回と最終回において漢字学習の基礎となる以下の内容について学ぶ時間を設けた。 ・漢字の基本的な書き方を提示した。 ・部首や、漢字の中にあるカタカナなどのパーツを意識しながら書く練習をした。 ・最終回では、コース内で扱った漢字から読み方をまとめ、音訓読みを説明した。 コース全体を通して、オンライン（同時双方向型）での提供及び、欠席者には授業の録画を配信した。 <u>「子育ての漢字教室」の準備のための活動</u> 座談会企画「子育て中の外国人の日本語支援について話し合いませんか」（オンライン）を開催した。

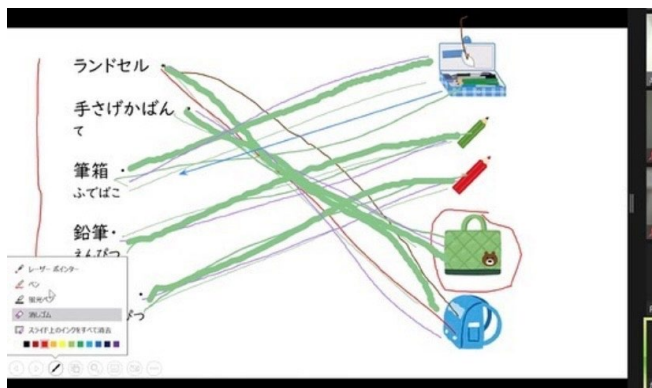
	開催日時：2022 年 8 月 31 日 午前 10:00～11:30 参加者：計 7 名（にほんご町内会より 1 名・多文化共生サポート adagio より 1 名・多文化センターまんまる明石 1 名・その他個人 1 名、及び主催者 3 名）		
実施期間	令和 4 年 6 月 1 日 から 令和 5 年 2 月 21 日 まで	授業時間 ・コマ数	1 回 1.5 時間 × 6 回 = 9 時間
対象者	簡単な日本語の会話がで き、ひらがな・カタカナが ある程度分かり、子育ての 漢字を学びたいと思ってい る外国人	参加者	総数 25 人 (受講者 19 人、 指導者・支援者等 6 人)
カリキュラム 案活用	各回のテーマ 1 回目：問診票を読もう 2 回目：入園・入学の準備をしよう（申込書） 3 回目：連絡帳を読もう①（保育園・幼稚園） 4 回目：連絡帳を読もう②（小学校） 5 回目：学校からの手紙を読もう・返事を書こう 6 回目：住所とまとめ 各回におけるカリキュラム案の活用 （01）医療機関で治療を受ける 0102020 問診票を理解する 0102030 問診項目を理解する 0102040 問診事項を記入する 0102070 住所を記入する 0103040 症状を説明する 0103050 体調を説明する 0103090 アレルギーを説明する →問診票を読もう 入園・入学の準備をしよう 住所とまとめ （03）病気を予防する 0301020 体調に気を付ける →問診票を読もう 入園・入学の準備をしよう （17）家庭で子供を育てる 1702010 病名や症状など基本知識を得る →問診票を読もう （19）幼稚園・保育園で教育・保育を受けさせる 1901100 入園希望申請書を提出する 1901180 保育園の連絡帳を読む →入園・入学の準備をしよう 連絡帳を読もう①（保育園・幼稚園）		

	(20) 小・中・高等学校で教育を受けさせる（中・高は対象外） 2002050 学校からの連絡に対応する 2002070 保護者面談を受ける 2002120 欠席・遅刻・早退の連絡をする 2003040 お知らせを読む 2003050 提出書類を準備する →入園・入学の準備をしよう 連絡帳を読もう②（小学校）学校からの手紙を読もう・返事を書こう (41) 学習方法を身に付ける 4102010 学習の方法を身に付ける 4102030 日常生活での学習方法を理解する 4103010 コンピューターの使用方法を理解する 4201080 経験者や指導者に尋ねる 4202110 学習仲間を作る 4301010 自分や周囲の人の体験から理解する →全ての回									
使用した教材・リソース	オリジナル教材を作成（保育園・幼稚園・小学校などからの配布物や実物を参考に講師が作成した）									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	3	0	0	0	0	3	4	1	1	0
	スペイン（1人）、アメリカ（1人）、インド（1人）、コンゴ（1人）、フランス（1人）、アフガニスタン（1人）、リトアニア（1人）									

（１） 特徴的な活動風景（２～３回分）

取組事例①

【第２回 令和５年１月２４日】 テーマ「入園・入学の準備をしよう」 入園、入学の準備を進めている時期であったため、前半は保育園、幼稚園から送られてくる書類に子どもの健康状態、食事、送迎等についての情報を記入し、後半は小学校から送られてくる学用品準備物のお知らせを理解し入学までに準備が進められるよう授業を構成した。 １．少人数のグループに分かれ、漢字の書き方の基礎④～⑥を説明した。 ２．幼稚園・保育所から入園前に送付される書類の中から、園児の情報を伝える書類を確認・記入した。 扱った漢字語の例：送り迎え・箸・手づかみ・排泄・下着等 書く練習をした漢字の例：父・母 ３．小学校から入学前に送付される書類の中から、学用品準備物のお知らせを読む。 扱った漢字語の例：学用品準備物・ランドセル・筆箱・手さげかばん 等 書く練習をした漢字の例：保護者 ４．おしゃべりの時間 全ての持ち物に名前を記入することについて、外国人補助者の経験談や共有などをした。
--



取組事例②

【第5回 令和5年2月21日】

1. 住所の練習

大阪府グループ、京都府グループ、兵庫県グループにわかれて住所練習を行った。

2. 漢字のまとめ

漢字の基本的なルールを説明した。説明には1回目から4回目までの学習内容の復習もできるように既習漢字を用いた。

3. 自分で勉強するときの方法

クラス終了後の自律的な学習のために、学習目標と方法について説明した。

①漢字には読みかたが2つあります。

かんじ よ
音読みと訓読みです。
おん よ くん よ



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

1. 子育てに特化した漢字教室の実施

（具体的な内容については上記「内容」欄に記載）

2. 授業内で漢字学習の負担を軽減し楽しく学べる方法を提示すると同時に、体系的に学べるように漢字の書き方や読み方の基礎を提示した。

3. 各回のテーマに合わせてオンライン授業用のオリジナル教材を作成した。聞くだけの授業にならないよう、受講者が共有画面へ書き込むなどの活動を取り入れたことで、受講者の様子が把握でき、受講者も積極的に楽しんで参加できた。授業後も繰り返し見られるよう、作成した教材は受講者に配信した。

4. シラバス・オンライン授業用の教材の作成・授業の全てにおいて、子育て中の地域日本語教育の専門家が担当した。受講生が授業の後すぐに学習した漢字語や情報を子育てに活用できるよう、実際に使用されている保育園・幼稚園・小学校からの配布物や、子育ての経験などを授業、教材へ反映させた。

5. 授業をオンラインで実施したことにより、受講者が居住地域を問わず受講することができた。また、欠席回には授業の録画を配信したことにより、受講者が学習を継続することができた。

6. 受講者が漢字教室に参加することで、日本で子育てをする外国人の保護者同士が出会い、交流することができた。

7. コース開始前にオンラインでの受講のための案内を送付した。これにより、受講者の不安を軽減し、学習へのモチベーションを高めることができた。また、受講者が事前に目を通したことにより、授業をスムーズに進めることができた。

8. 受講者を対象にアンケートを実施し、受講者からの漢字教室に対する評価やニーズを把握することができた。結果は別添資料として提出する。

9. 第3回「NPO 法人 YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち」から1名、5回「日本語教室りぼん」から1名の見学者を受け入れた。

10. 座談会企画「子育て中の外国人の日本語支援について話し合いませんか」（オンライン）を7月に開催した。小規模での実施ではあったが、外国人保護者の日本語学習支援を実施している、あるいはこれから立ち上げようとしている他団体や個人の活動を知り、情報収集、情報交換、課題共有などを行った。これにより、本取組について発信すると共に、横の繋がりを広げ活動を発展させていく足がかりとなった。

11. SNS にて漢字教室の広報、授業の様子、座談会、日本語教育学会での発表について発信した。

（3）今後の改善点について

- ・ 授業のテーマ、内容、教材の更なる改善
- ・ 受講者同士の交流などオンラインでの交流の在り方の検討
- ・ 座談会で生まれた横の繋がりの活用
- ・ 関西圏以外への広報

【活動の名称：「生活の漢字」についての多言語リーフレットの制作・配布】

取組の目標	地域において、日本語学習支援の取り組みは、会話が中心であり、文字学習支援の必要性や役割については、周知されていない。また学習を希望していても、どこでどのように学べるのかについては、あまり知られていない。また、これまでは主に支援者に向けて情報を発信してきたため、支援者となつがっている学習者や、自ら手を伸ばして情報を取ろうとしている人にしか十分に届いていなかった。日本語学習支援、特に文字学習について、より多くの人に認知してもらうためには、情報へのアクセスへのハードルを下げる手段が必要である。 本取組においては、プロのデザイナーと文字教育の専門家が協力し合い、手軽でかつ魅力的なリーフレットを多言語で作成する。さらに外国人支援関係団体・機関だけではなく、多くの場所に配布し、多くの人が目につく場所で手軽に手にできるようにすることで、これまで日本語学習支援についてアクセスしていなかった人が学びへの気づきを得られるツールとして活用したい。									
内容	リーフレットの作成と配布（各国語リーフレットは添付） 「生活の漢字」学習についての意義・役割についての導入部分、生活の漢字を学びたいと思ったとき（もしくは学ぶことを進めたいと思う人がいたとき）にどこへアクセスすればよいのかなどの基本的な情報を掲載したリーフレットを多言語（日本語・英語・ベトナム語・ポルトガル語・タイ語・インドネシア語）で作成した。文字教育の専門家が原稿を執筆、元漢字教室の学習者で在住外国人デザイナーと共に制作を行い外国人学習者の興味関心を引くように工夫した。リーフレットは気軽に手に取り、簡単に読めるようにし、漢字学習について、タイムリーに情報へアクセスすることができるようSNSのQRコードや連絡先を掲載した。 各関係機関に郵送するだけでなく、大阪市立総合生涯学習センターの協力を得て逡送便で送付したほか、大阪市教育委員会実施のコーディネーター研修で参加者にも手渡すことができた。									
実施期間	令和4年 6月1日から 令和5年 3月18日まで			授業時間 ・コマ数		(打ち合わせ) 1回2時間×2回				
対象者	地域住民 (日本人・外国人)			参加者						
カリキュラム案活用	なし									
使用した教材・リソース	なし									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	リーフレットの言語は、日本語、英語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語									

リーフレット英語版 表・裏




JR 大阪駅
シェイアル おお さ き



かんじのきほん

1. している かたちを みつける。
大 >> ナ
2. よこの せんから かき。
太 ③
3. ひだりから みぎへ うえから した。
阪 >> 反 >> 反
4. ストーリーをつくる。
駅 馬 コ 人

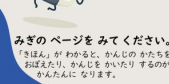
▶ ひとつひとつの かんじを れんしゅうしたら、
あわせて 「大阪駅」 と ききましょう。

▶ うちに いちばん ちがいの なまえの
かみで きやんぽん になって
べんぎょうして みましょう。

▶ 「さはん」の かきかたは
どうして いろいろ ちがうの？



JR 大阪駅
シェイアル おお さ き



かんじのきほん

1. している かたちを みつける。
大 >> ナ
2. よこの せんから かき。
太 ③
3. ひだりから みぎへ うえから した。
阪 >> 反 >> 反
4. ストーリーをつくる。
駅 馬 コ 人

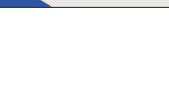
▶ ひとつひとつの かんじを れんしゅうしたら、
あわせて 「大阪駅」 と ききましょう。

▶ うちに いちばん ちがいの なまえの
かみで きやんぽん になって
べんぎょうして みましょう。

▶ 「さはん」の かきかたは
どうして いろいろ ちがうの？



JR 大阪駅
シェイアル おお さ き



かんじのきほん

1. している かたちを みつける。
大 >> ナ
2. よこの せんから かき。
太 ③
3. ひだりから みぎへ うえから した。
阪 >> 反 >> 反
4. ストーリーをつくる。
駅 馬 コ 人

▶ ひとつひとつの かんじを れんしゅうしたら、
あわせて 「大阪駅」 と ききましょう。

▶ うちに いちばん ちがいの なまえの
かみで きやんぽん になって
べんぎょうして みましょう。

▶ 「さはん」の かきかたは
どうして いろいろ ちがうの？

大阪駅
OSAKA STATION

かんじのきほん

1. している かたちをみつける。

大

>>

ナ

2. よこの せんかを かく。

大

1

3

3. ひだりから みぎ、うきから した。

阪

>>>

反

>>

反

4. ストーリーをつくる。

駅

馬

コ

人

おきかた

みぎのページをみてください。

ここでは、お母さんが、かんじのきほんの
お話をしたり、かんじをかいたりするの
がかんじに なります。

大阪駅
OSAKA STATION

かんじのきほん

1. している かたちをみつける。

大

>>

ナ

2. よこの せんかを かく。

大

1

3

3. ひだりから みぎ、うきから した。

阪

>>>

反

>>

反

4. ストーリーをつくる。

駅

馬

コ

人

おきかた

みぎのページをみてください。

ここでは、お母さんが、かんじのきほんの
お話をしたり、かんじをかいたりするの
がかんじに なります。

大阪駅
OSAKA STATION

かんじのきほん

1. している かたちをみつける。

大

>>

ナ

2. よこの せんかを かく。

大

1

3

3. ひだりから みぎ、うきから した。

阪

>>>

反

>>

反

4. ストーリーをつくる。

駅

馬

コ

人

おきかた

みぎのページをみてください。

ここでは、お母さんが、かんじのきほんの
お話をしたり、かんじをかいたりするの
がかんじに なります。

大阪駅
OSAKA STATION

かんじのきほん

1. している かたちをみつける。

大

>>

ナ

2. よこの せんかを かく。

大

1

3

3. ひだりから みぎ、うきから した。

阪

>>>

反

>>

反

4. ストーリーをつくる。

駅

馬

コ

人

おきかた

みぎのページをみてください。

ここでは、お母さんが、かんじのきほんの
お話をしたり、かんじをかいたりするの
がかんじに なります。

「生活の漢字」に特化した情報を届けるリーフレットを多言語で作成できた。日本語学習者は、日本語の読み書きができないことで情報を得にくい。日本語学習者自身への直接的なアプローチを行うために、リーフレットは日本語を含めた5言語で作成し、情報発信を行った。今回は元学習者であるタイ人デザイナーと綿密に打ち合わせ、日本語学習者の目をひく色合いやインパクトのあるデザインにし、関係団体等、100か所以上に配布した。これにより、これまで地域の日本語教育や漢字学習支援について興味関心を持たなかった人にも気軽に手に取ってもらい、漢字学習支援の楽しさや必要性にふれてもらうことが可能となったと考える。

当初の予定よりも、リーフレットの作成・印刷が遅れたことから、講座等の広報における活用ができなかった。そのため、配布と効果の検証が十分にできていない。引き続き、配布協力関係機関への依頼・訪問や、問い合わせ・講座等の申し込み時のアンケートを活用して効果の検証が必要である。

【活動の名称：地域に合わせた「出前漢字教室」】

取組の目標	それぞれの地域に適した文字学習支援方法の検討、モデル授業の実施により、各地域で継続的に漢字学習支援が行える人材の育成を目標とする									
内容	文字教育の専門家と地域ボランティアとで各地域日本語教室で継続可能な形での漢字学習支援について検討しモデル授業を実施する。 １．コーディネーター・中心となるボランティアへのヒアリング ２．「出前漢字教室」の実施形態の検討・企画 ３．文字学習支援についての基本的な考え方、実施方法についての説明 ４．地域に暮らす外国人のための「出前漢字教室」実施／ボランティアの見学・参加 ５．振り返り ＜茨木市＞ ※２日とも対面 場所：茨木市 ローズ WAM １日目 11月20日(日) (対象：学習者と支援者) ２日目 12月4日(日) (対象：支援者のみ) ＜加東市＞ １日目 1月19日(木) (対象：支援者のみ) ZOOMによるオンライン講義 ２日目 2月17日(金) (対象：学習者と支援者) 場所：加東市国際交流協会									
実施期間	令和４年６月１日から 令和５年３月２８日まで			授業時間 ・コマ数		茨木市 2.5h×１回＋1.5h×１回＝４時間 加東市 2h×１回＋2h×１回＝４時間				
対象者	日本語学習支援を実施する 団体責任者 日本語学習支援者 日本語学習者			参加者		総数 58人 (受講者 50人・指導者・支援者等 8人) (茨木市受講者 18人) (加東市受講者 42人)				
カリキュラム 案活用	4202「日常生活の中で日本語を学習する」									
使用した教材・リソース	オリジナル教材									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1			9			3		1	28
	アメリカ（３人）、エルサルバドル（１人）、グアテマラ（１人）、カナダ（１人）、ウクライナ（２人）									

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

取組事例①

【茨木 第1回 令和4年11月20日】

1. 自己紹介（グループ）
 2. 漢字探し（学習者・支援者別々に、学びたい漢字を館内に探しに行く）
 3. 漢字の基本
 4. 今日の漢字（文字教育専門家によるファシリテーション）
- ・ グループで2の漢字を共有し、今日学ぶ漢字を決める
 - ・ 漢字を楽しく学習する



取組事例②

【加東市 第2回 令和5年2月17日】

1. 自己紹介（グループ）
 2. 漢字探し 学習者：学びたい漢字を館内に探しに行く
 支援者：「生活の漢字」学習支援方法を確認する
 3. 漢字の基本
 4. 今日の漢字（文字教育専門家によるファシリテーション）
- ・ グループで2の漢字を共有し、今日学ぶ漢字を決める
 - ・ 漢字を楽しく学習する
 - ・ 学んだ漢字を紹介する



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

これまでの実践の中で、地域で活動する支援者から、文字学習支援の重要性を理解し、教材が入手できても、地域日本語教育の実践や運営に文字教育の専門家がほとんど携わっておらず、どのように漢字学習をすすめるべきか戸惑う声も多く聞かれた。これらのことを文字学習支援が普及しない原因の一つと考え、地域の実情に合わせた文字学習支援のための「出前漢字教室」に出向くとともに、継続的に支援に関わる学習支援人材の養成を行った。

まずは、「出前漢字教室」の開催を希望する地域のコーディネーター等と話し合い、現状を聞き取るとともに、地域に合わせた形について共に考える機会を持った。このことで、地域で学習支援の中核となる人材にもより実施についてのイメージと意義を把握してもらうことができた。

茨木市においては、昨年度のコーディネーター養成講座の受講生が中心となり、行政や日本語学習ボランティア教室に働きかけを行ってくれたことで「出前漢字教室」が実現した。またこの講座を通じて、文字学習支援への動機づけのみならず、市内のボランティア教室全体での初めての合同実施となり相互の交流を図る機会ともなったと、高く評価された。地域においてコーディネート役割をしてくれた元受講生による実施後のアンケートの結果から、参加者の半数は文字学習支援を継続していることがわかったとの報告もあった。

加東市における実施は、兵庫県国際交流協会の仲介により実現した。漢字教室は、当初9月に予定されていたが、コロナ感染者の増加により年明けに延期され、また昼の学習者が激減したことにより夜の日本語教室での開催になるなどの変更もあった。1回目の支援者に向けた「漢字学習支援の必要性」「生活に必要な漢字から学ぶ学習方法」の講座と、2回目の支援者、学習者とともにその漢字学習方法を実践する講座を行うことで、初めは「漢字は難しい」「好きではない」と発言していた学習者、また「文字学習を取り入れていない」と話していた支援者に変化が見られ、「漢字は面白い」、「これならできる」という声が聞かれた。講座後のアンケートでは全員が「漢字を続けて勉強したい」と答えている。

今年度の2か所での出前漢字教室は、前年度までの人材育成及びネットワークを活用し実現した。このように、これまでの人材育成及びネットワークを活用し実施ができたことは喜びである。また今回初めての試みとして、支援者・学習者が文字教育の専門家のファシリテーションのもと、実際に実生活に根付き、一人一人のニーズにあった「漢字」をどのように学ぶのかを体験することで学習者は、「漢字」学習の楽しさを知り、またその様子を目の当たりにした支援者の意識を変えることができたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

今回、「出前漢字教室」の開催にあたっては地域の教室のコーディネーターやボランティアとの連携がキーとなった。茨木市においては、上に述べたように昨年のコーディネーター養成講座の受講生が中心になって、働きかけを行ってくれたが、「出前漢字教室」の実施に至るまでには行政や各日本語教室との調整に多大な時間と労力が必要であった。

加東市においては、上に記したような想定外のアクシデントが続き開催が危ぶまれた。報告・連絡・相談を速やかに行うことを再確認したい。

地域、特に行政機関の関わる場所での各プログラム実施には、通常前年度の秋ごろまでの企画・予算獲得が必要となるが、本事業のような単年度事業での実施では、地域におけるプログラムの実施へのハードルが高い。リーフレットを活用して常時文字学習支援に関する啓発活動を行い、自主事業としての支援者養成や漢字教室の実施を検討していただけるよう、働きかけを行っていく必要がある。

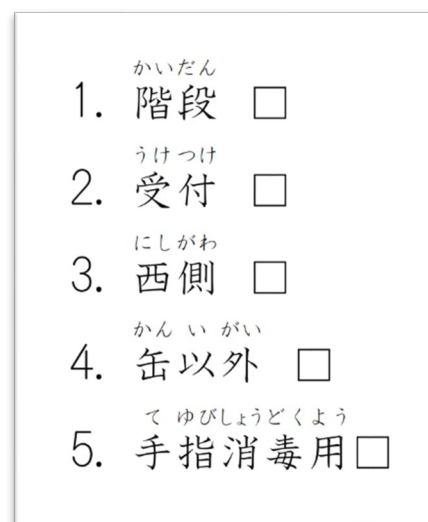
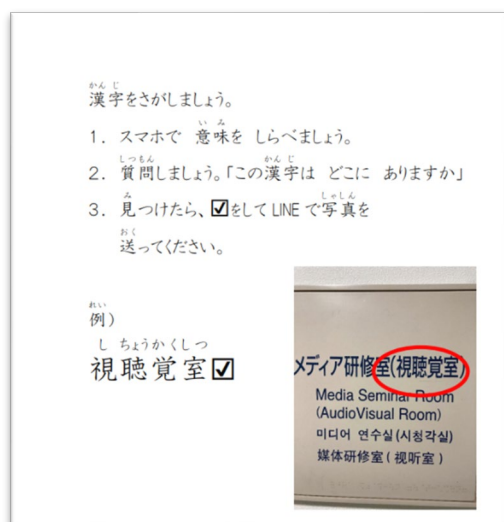
任意（取組5）その他関連する取組			
【活動の名称：「生活場面から文字を学ぶためのスマホ教材」】			
取組の目標	日本語学習者が支援者とともに、もしくは自律的に文字を学ぶ教材を提供する。スマホという身近で手軽なデバイスを用いることで、漢字学習に興味を持ち、継続的に自律的に学ぶことができるようにする。 1 生活基盤や安全に関わり緊急性がある生活上の行為に必要な情報を文字から得られるようになる。 2 「日本語教育の参照枠 8 漢字を含む文字の扱いについて」に示されている「基礎漢字の目安とレベル・分野別漢字学習のイメージ」にある「基礎漢字」を含む生活場面での漢字語の意味理解ができるようになる。		
内容	取組1「永住のための漢字教室」の日本語指導者が、20の漢字教材を作成、実際に教室で試用し、さらに日本語指導者と補助者（外国人スタッフおよび地域日本語教育実践者）を交えて検討・改善を行った。作成教材はスマホで閲覧可能な形で400ページ程度となった。また、基本的な書き方の動画教材を作成しSNS上に公開した。 この動画教材は取組1、取組2では学習者の自律学習教材として作成したが、取組3のリーフレットにも漢字学習への入り口となるようリンク先のQRコードを添付している。 1「基礎漢字の目安とレベル・分野別漢字学習のイメージ」にある基礎漢字を参照に生活場面に必要な漢字語を学べる教材を作成した。 2 漢字語単体の学習に加え、学習項目に関連させた文を、漢字を使って書く学習を適宜教材に加えた。 取組2「子育てのための生活の漢字教室」の日本語指導者が6回分の漢字教材を子育てというライフステージに絞って作成し、オンラインにて試用し、さらに日本語指導者と補助者（外国人スタッフおよび地域日本語教育実践者）を交えて、都度検討・改善を行った。作成教材はスマホでの閲覧可能な形、かつオンライン授業での使用を想定しパソコン画面にあう横長の形で7つの内容で作成した。また、漢字の基本的な書き方が学べる動画教材に合わせ「漢字の勉強を始める前に」と題した教材を作成し、漢字学習の自律的な学習の支援を行った。 1 連絡帳や提出書類など学校や幼稚園、保育園での文字のやり取りが必須となる場面で手引書として活用できる形とした。 2 学習した内容を総括できる「まとめ」の教材を作成した。		
実施期間	令和4年7月5日から 令和5年3月28日まで	作成教材の授業 での使用時間 (動画教材以外)	取組2-1 1回2時間 ×24回=48時間 取組2-2 1回1時間半×6回 =9時間
対象者	日本語学習者・学習支援者 ※文化庁教材サイト 「NEWS」や、SNSを通じて の多数の使用を想定して いる。	教材利用者	総数243人 取組2-1 29人（受講者18人、指導者・支援者等 11人） 取組2-2 34人（受講者28人 指導者・支援者等 6人） SNS動画教材閲覧者180人（令和5年2月25日現在）

カリキュラム活用	標準カリキュラムに基づき教材内容を検討し、当該場面・行為において必要となる漢字語を教材に組み込んだ。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	7	0	1	1		6	10	3	1	12
	メキシコ（5人）コロンビア（1人）、アフガニスタン（2人）、イスラエル（1人）、イギリス（1人）、ドイツ（1人）スペイン（1人）アメリカ（3人）インド（1人）コンゴ（1人）フランス（1人）リトアニア（1人）スイス（1人） SNS閲覧者の国別内訳は不明									

（１） 特徴的な活動風景（２～３回分）

取組事例①

【取組１ 生活のための漢字教室：漢字を使った活動】時間内に指定された場所で身の回りにある10の漢字語を学習支援者とともに探し、写真をとってくるという活動型教材である。「生活のための漢字教室」を行っている大阪市立総合生涯学習センター内で使用した教材であるが、どの地域にもある漢字語であり、地域や場所を問わず実施が可能である。

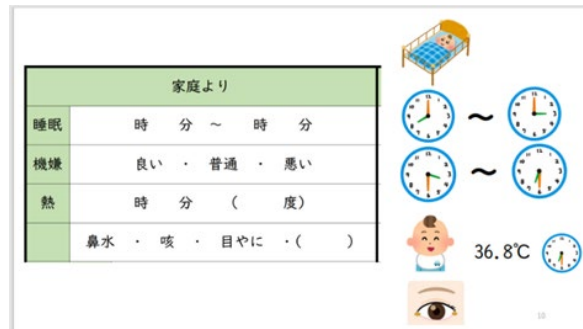


取組事例②

【取組２ 子育てのための生活の漢字教室】

保育園や幼稚園で使用されている連絡帳の漢字語の意味理解、読み方の学習を行った。家庭からの連絡事項と園からの連絡事項について学び、家庭からの連絡事項欄は子供の体調や睡眠について該当箇所に○がつけられるようになること、園からの連絡事項欄は確認すべき内容が読み取れるようになることを目指した。

授業では子どもの状態や連絡すべき内容項目を画面上で学習者が記入できるような教材とした。



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

取組1の教材では、漢字語の学習のみならず文を書くというページを設けたことで、学習者は生活に役立つ漢字語を学ぶのみならず、学習の先にある自己表出の手段を得るという目的を持つことができ、学習者の学習意欲がさらに向上した。

取組2の教材では、学習者が書き込むことを想定した教材としたことで、学習者の積極的な参加が促された。また、動画教材を SNS で公開することで不特定多数の人に情報発信をすることができ、アウトリーチの一助となった。

(3) 今後の改善点について

スマホ等のデバイスを使った学習に役立てられる教材は、身近で手軽な教材であるが、その認知度はまだ低い。今後は作成した教材を SNS 等や広報活動を通して積極的に活用し、その利用の拡散を図っていくことが課題である。

3. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業の目的は次の4つである。

1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進

文字学習を中心とした教室を文字教育専門家が実施することで、「生活者としての外国人」が身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てられるように、文字学習の困難を軽減し、漢字を学ぶモチベーションを高める。さらに、使用教材のスマホでの配布・閲覧、「つながるひろがる にほんごでのくらし」サイトの有効活用など、学習者が教室外でも自律的・継続的に日本語を学ぶためのサポートを行う。また元学習者である外国人スタッフにより、学習者の声を丁寧に拾い、寄り添うサポートを行うと共に、ロールモデルとなる人材との出会いの場とする。これらによって「生活者としての外国人」の日本語学習や十全な社会参画を促進することを目的とする。

2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場（オンライン）

「子育て」というライフステージにある外国人が、育児や就学、就業に関して文字情報を取得したり、書類の記入等ができるよう「子育てのためのオンライン文字教育プログラム」を開発する。講師や補助者も、子育て中である者が担当し、子育て中の人に参加しやすい時間帯に教室を設置する。文字の学習のみならず、同じ立場の人とつながり、お互いに情報交換や悩みの共有、相談ができる場の提供を目的とする。

3. 「生活の漢字」についての理解の促進と普及

多言語でのリーフレットを作成し、関係機関のみならず、これまで日本語教育や文字学習支援とつながりのない人にも知ってもらえるように、広く配布することで、「生活の漢字」についての理解の促進と普及を図る。

4. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成（アウトリーチ）

各地の地域日本語教室で活動するコーディネーターや中心となるボランティアとともに、その地域の実情に合った「生活の漢字」教室を模索する。文字教育専門家がその地域に赴いて在住の外国人を対象に「出前漢字教室」を実施し、ボランティアにも見学や参加の機会を提供することによって、各教室にふさわしい漢字学習プログラムを構築、継続的に実施できる人材を育成する。さらに地域での文字学習支援についての相談体制を整え、文字学習支援のネットワークを構築することを目指す。

(2) 特定のニーズの充足に向けて試行した方法

1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進

「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進として試行した方法は下記5点である。

1) 漢字学習の基礎を身につけるための活動

基礎的な漢字の書き方を集中的に行ったことで、教室活動での書字練習だけではなく、継続的に漢字を自主学習するための基礎力を養った。

2) 漢字語を認識するための活動

学習者は理解できない文字を「記号」とは認識できない状況であることが多い。そのため、まず日本語の文字、特に漢字語を日常的に認識することを習慣づけさせるための活動を行った。

3) 生活場面の漢字語を習得するための活動

日常生活のなかで必要な漢字語の読み書きを習得するための活動を行った。特に、それぞれのテーマが有機的に繋がるようシラバスをデザインした。例えば、「名前と住所を書く」回のあとに、問診票や履歴書などを通して繰り返し名前と住所を書く練習ができるようにした。

4) 日常場面における実践活動

学習した漢字を実際に使用することを目的とした実践的な活動を行った。フィールドワークや漢字をモチーフにしたハンドメイド作品の制作である。

5) 自己表現活動

学習者が「私」を語ることをテーマとして作文活動を行った。単に自己紹介文ではなく、学習者の家族や友人のこと、日本での経験や仕事、これまでの人生や将来への思いなどを語ることで講師と学習者だけではなく、学習者同士の繋がりも強くすることができた。

2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場（オンライン）

子育てに特化した文字学習支援の場が不足していることに対し、子育てで目にする漢字語が理解できることを目的とした漢字教室をオンライン（同時双方型）で実施した。試行した点は主に3つある。

1) 日本語教育の専門家であり、子育て中である者が授業内で漢字学習の方法を提示、実践すると共に、実際の子育ての経験を授業や教材に反映させた点である。それによって、受講者が授業後すぐに子育ての中で目にする漢字語や子育てに関する情報を得ることができた。

2) 全ての授業をオンラインで実施した点である。これにより、受講者の在住地域を問わず日本国内どこからでも参加が可能になった。また、欠席者には授業を録画した動画を配信したことで、時間を限定することなく子育ての隙間時間に学習ができるようになった。オンラインでの提供は感染症などの心配を軽減し、幼い子どもを連れての移動や、子どもを預ける必要がなく、また子育て中の忙しい保護者のニーズにも合致していると言え、外国人保護者の学習機会を促進し、学習継続のハードルを下げた。

3) 本取組に参加することで、外国人保護者同士が知り合い交流する場となるよう授業の構成を工夫した点である。具体的には、各回のテーマについて子育ての経験談や子育てにまつわる情報などを自由に話し共有する時間などを意識的に取り入れた。外国人の補助者に積極的に参加してもらい、日本で子育てをする外国人の先輩として様々な話題を共有してもらった。

3. 「生活の漢字」についての理解の促進と普及

漢字学習の楽しさを伝えるためのリーフレットを作成した。日本語学習者に手に取ってもらいやすいよう、多言語（日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、タイ語）のリーフレットを作成。元学習者である外国人デザイナーに依頼し、興味を持ってもらいやすいデザインにし、「先輩の声」として漢字教室で学び、現在は補助者として活躍している外国人スタッフからのコメントを掲載した。

関係機関のみならず、これまで日本語教育や文字学習支援とつながりのない人にも知ってもらえるように、広く配布した。

4. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成（アウトリーチ）

2つの地域において、キーパーソンに企画の段階から関わってもらい、その地域にあう形を検討した。また今年度は、支援者を対象とした研修だけでなく、受講後に漢字学習支援を継続してもらいやすいよう支援者・学習が共に学ぶワークショップを組み込んだ。

（３）目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進

（２）特定のニーズの充足に向けて試行した方法に挙げた５点の方法を通して、「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進を達成したと考える。

2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場（オンライン）

本取組により、子育てに関する漢字学習支援の場が増えたかどうかは確認できていないが、他地域、団体の参考となるよう、授業の見学者を受け入れた。また日本語教育学会の地域発信企画にて発表、SNSにて教室の広報、授業の様子を掲載するなどを通して広く発信した。

漢字教室はオンラインでの開催であったが、受講者はほぼ関西圏からの参加であった。これは本団体の活動拠点が大阪にあり、これまで築いてきたネットワークを活用し広報を行ったためと考えられる。オンラインの強みを生かし、今後は関西圏外への広報を検討したい。

3. 「生活の漢字」についての理解の促進と普及

（２）特定のニーズの充足に向けて試行した方法に挙げた方法を通して、「生活の漢字」に対する理解の促進と普及に成果があると考ええる。

4. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成（アウトリーチ）

茨木市においては、1つの日本語ボランティア教室だけでなく、4つの教室に呼び掛けて合同実施を行うことができた。また加東市では、コロナによる教室閉鎖、市外からの人材の流入防止など、再三にわたる実施延長を経て、支援者のみを対象とする1回目はオンラインで実施をすることとなった。さらに、2回目については当初は当初は中心地から離れた教室で午後に行う予定だったが、教室の参加状況を鑑みて、中心地での夜間の実施に変更した。このように、開催には紆余曲折があったが、各地域の状況に合わせて、柔軟に企画を検討・変更することでアウトリーチが実現した。このことで地域との連携が深まり、今後も継続的な支援を求める声も聞かれた。

支援者・学習者が文字教育の専門家のファシリテーションのもと、一人一人のニーズにあった「漢字」をどのように学ぶのかを体験するワークショップはでは、学習者は「漢字」学習の楽しさを知り、その様子を目の当たりにした支援者の意識を変えることができた。このことは、今後の活動につながると考える。

（４）地域の関係者との連携による効果、成果等

1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参画の促進

漢字教室に、日本語教育や社会教育を専攻する大学、大学院生、地域の識字日本語教室で活動する支援者、大阪市内の学校教員の見学者を受け入れることにより、地域の関係者との連携に努めた。これらのことは「生活の漢字」グループが大阪市や大阪市の夜間中学から依頼を受けて行った講座に繋がったと考えられる。

2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場（オンライン）

大阪市立総合生涯学習センターと広報において連携した。また、とよなか国際交流協会を訪問

し、大阪府豊中市におけるコロナ禍での外国人と子育て中の保護者の状況や、とよなか国際交流協会では実施しているオンラインクラスの状況、広報等について情報収集を行い、本取組の広報活動に活用した。これらにより、令和3年度（立ち上げ年度）と比べ今年度は講座申込人数が約30人となり、昨年度の倍以上に増えた。

3. 「生活の漢字」についての理解の促進と普及

大阪市総合生涯学習センター・大阪市教育委員会の連携により関係機関へのスムーズな配布と設置のお願いが可能になった。また運営委員の所属団体をはじめ、これまで人材養成を行ってきた団体への配布により、地域への広がりが期待される。

4. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成（アウトリーチ）

「出前漢字教室」は、茨木市では「昨年度のコーディネーター養成講座受講生で、地域の日本語支援活動において活躍している人材との連携により実現した。当初は1教室とでの実施を検討していたが、地域への地道な働きかけにより4つの団体の協力・参加が可能となった。また加東市での実践は、これまでも連携をしてきた兵庫県国際交流協会の紹介によるものである。これまで培った地域との連携・協力体制を活かすことができたと考えられる。

（5）事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

事業実施にあたっての周知・広報に関しては、大阪市教育委員会、兵庫県国際交流協会等の関係機関への周知、運営委員の協力、文化庁、地域日本語教育コーディネーター、昨年度のコーディネーター養成講座の受講生のメーリングリストの活用、および日本語教育学会での「子育ての漢字教室」についてのポスター発表、『生活の漢字』をかんがえる会のメンバーが他事業で講師を担当した各地域での養成講座における広報等がある。

事業成果の地域への発信については、各事業の様子や動画教材をInstagramで公開することで不特定多数の人に情報を発信した。また「生活の漢字」について、多言語のリーフレットを作成、大阪市中心に関西地域へ配布した。

（6）改善点、今後の課題について

各事業内容については、上記に示したとおりであるが、全体としては持続可能な活動に向けての検討が必要である。

プログラムCの本事業は今年度2年目、来年度は採択されれば3年目で最終年度となる。文字学習支援については、少しずつその必要性の認識が広がりつつあるが、まだまだ取り組みが行われている地域は少ない。本事業の文化庁事業後の継続的な実施について大阪市教育委員会をはじめ、各団体との連携を打診してきたが、前向きな回答は得られておらず未だ先が見えていない。委託事業後も文字学習支援や啓発活動を継続するしくみづくりが大きな課題である。